



いちいの会 だより

NO.64
2024. 4
春号



満開の桜の下で記念撮影

目次

新年度に向けて 理事長挨拶	2
事業所だより	2,3
権利擁護研修／職員日記	4
行事いろいろ	5
NHK歳末助け合い赤い羽根共同募金会 ありがとうの会／編集後記	6

いちいの会のホームページアドレス
<http://www.ichiinokai.com/>
ご意見・ご感想お聞かせ下さい



職員募集のご案内



新年度に向けて

理事長挨拶

社会福祉法人いちいの会 理事長 山内幹雄

春たけなわの季節となりましたが、皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。

私、山内は令和4年6月に前児嶋理事長よりバトンタッチを受け理事長に就任しましたが、時がたつのは早いものでもう2年が過ぎようとしています。

昨年にはくすのき苑の中庭増築工事、尾崎台のグループホームしいのきの新築工事と大型投資プロジェクトが完成し人心地着いたところです。現在理事会や理事長の諮問機関である経営会議にて今後の中長期の案件を検討しており、まとめ次第、身の丈にあった投資プロジェクトを順次取り上げてゆく予定です。

一方で、昨年まで猛威を振るったコロナ他感染症や今年1月の能登半島地震他天変地異が起こっており、今後、より徹底したBCP(事業継続計画)作りやその実効性を確かめるための訓練を行い利用者様のみならず職員の安全を確保出来るよう邁進してまいります。

利用者様にも、職員にも愛される法人を目指して参りますので引き続き温かいご支援の程を宜しくお願い致します。

くすのき苑

くすのき苑 副施設長 戸邊 泰介

平素よりいちいの会、及びくすのき苑の運営にご協力いただきましてありがとうございます。

昨年度のくすのき苑を振り返りますと、計画から数年をかけて進めてきた大規模改修工事を終えるとともに、同じく数年にわたって、利用者様の生活や施設の運営にたくさんの影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス対策も(一応は)ひと段落し、少しずつ日常を取り戻していった一年だったように感じています。

こころばかり、安全面への配慮に偏重せざるを得ない状況が続いていましたので、今年度からは、利用者様それぞれがご自分らしく活き活きと振舞えるよう、少し生活の幅を広げていきたいです。

折しもこの4月から、より細やかなサービス提供を求める内容での制度設計が、行政からもありました。

施設の内外が落ち着いてきた分、利用者様の暮らしにじっくりと向き合う風を、改めて作っていかねばと考えています。

ワークショップくすのき

ワークショップくすのき 施設長 大谷 篤司

今年も桜が咲き誇る季節を迎えることができました。1年が過ぎるのはとても早く、それは、年齢を増すごとにスピードアップしているように感じます。

今年度から、ワークショップくすのきでは、利用者の皆様の多様なニーズに対応するため、お仕事をバリバリ頑張るグループと体作りグループに分かれて活動することとしました。

また、新型コロナウイルスが感染症法上の2類から5類に移行し、1年が経とうとしています。外部の行事が活発になってきていますが、新型コロナ感染力を考慮し、当法人では、この1年間慎重に外出等の計画をしてきました。感染対策を講じたうえで、今年こそは、皆様が楽しみにしている旅行に行きたいと考えています。この1年をどのように過ごすのかは、自分次第です。そして、たくさんの楽しいこと、嬉しいこと、そしていろいろなピンチもやってくることでしょう。私の子供が大好きな絵本に「大ピンチずかん2」というものがあります。毎日寝る前にその本を読んであげてのですが、その中にこんなことが書かれています。「くらしの なかには たくさんの 大ピンチがある。どうして 大ピンチなのか その りゆうにも いろいろ ちがいがあそうだ。もし きみが 大ピンチになっても そのりゆうを たしかめて 大ピンチの しょうたいを はっきりさせてしまえば きっと あわてないで すむだろう。」と初めに書かれており、子供が体験するいろいろな大ピンチが書かれています。そして最後に、「つらい はずかしい きもちわるい ふあん ドキドキ イライラ。それって ぜんぶ、じぶんの こころの なかのこと。」「こころの なかの じぶんの きもちを きっと じぶんで かえられる。」「そう 大ピンチなんて こわくない！」その通り！自分を変える事ができるのは自分しかないのだ！！どのような大ピンチがこれからやってくるのか、それを想定し、自分自身に起きていることを分析して、課題を解決の糸口を自分自身で見出していく。子供の絵本から、ハッとさせられ、そして、とてもよい教訓を得ることができました。子供が大好きな本は、私のバイブルになりました。

事業所だより

グループホームかえで

グループホームかえで 課長 金 隆史

春の心地よい風に心華やぐ季節となりました。2月に新たなホームが開所し、そこでの暮らしも2カ月が過ぎようとしています。開所当初こそ、利用者の皆様、支援者共に戸惑いを感じられましたが、生活が進むにつれ徐々に慣れてきた様子です。平成18年にグループホーム事業を開始し、今年で18年目を迎えます。その間、利用者の皆様の高齢化も進み、病気や身体機能の低下、転倒による怪我等、医療にかかることも増えており、高齢者施設に移られる方もいます。また、余暇や生活支援に外部サービスの利用の検討も進む反面、サービスを提供する事業所の不足も耳にします。利用者の皆様のより充実した生活の実現に向け、より一層、社会資源の活用と関係機関との連携を深める1年にしたいと思っています。

中核地域生活支援センター のだネット

のだネット センター長 五十嵐 孝子

元日に発生しました能登半島地震により、被害にあわれた方、その家族の方々へ、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く安心した生活を取り戻せるようお祈りしています。

昨年度から関宿高校で開催することになった「高等学校内における居場所づくり事業」は8回を重ね、最初はフードロス対策として食料等を配布していましたが、ゲームコーナーやカフェコーナーを作ったことで、ゆっくり過ごしてくれる生徒が増えました。生徒から名称を募り、「放課後カフェ」と決めました。

放課後カフェでは、関宿商工会の青年部の方や地域の福祉事業所の方々が協力して下さり、生徒と地域の方々との交流が始まっています。子ども家庭総合支援課の方々にも協力して頂き行政にも高校生の実情を感じてもらえる場となっています。少しずつですが学校を通じて、生徒の家庭内の問題などの相談にも結び付いています。

県からの予算は今年度限りですが、継続して開催していけるように関係機関の皆さんとあり方を検討してまいります。

中核地域生活支援センター事業はこれまで単年度契約でしたが、今年度から3年契約となりました。長期的な取り組みも考えて行かなければと考えています。

相談支援センターいちいの木

いちいの木 所長代理 中村 成彦

私が常勤の相談支援専門員になって7年6ヶ月が過ぎました。今年度も初心の気持ちを忘れずに業務に励みたいと思います。

コロナの感染状況も少し落ち着き、利用者様ご家族との面談で話を聞くと、週末に外食等の外出に行くご家庭が増えています。面談時にマスクを着けていないご家族も増えています。街中でも、マスクを着けずに歩いている若者を多く見かけ、コロナの影響が小さくなってきていると実感します。

新年度は、報酬改定があります。国は入所施設の利用者様の地域移行を推進しています。地域で暮らす場合、ヘルパーの存在が必要ですが、人員不足の事業所が多い状況です。ニュースでも報道されていましたが、ヘルパー（居宅介護）の報酬を下げる方針です。国は、障害者の病院・施設からの地域移行を掲げていますが、地域で生活するために必要な居宅介護事業所の報酬を下げることは、ヘルパーが今以上に減る可能性があるということです。その為、地域移行を進めていくことと矛盾しています。現状を踏まえると、重度の知的障害者の方々の受け入れ先を増やすことの方が重要なのではないかと感じています。

権利擁護研修



くすのき苑では、月1回権利擁護研修を行っています。

2月は「利用者様に対する呼び方は合っていますか」「施設の外に自由に出られないのはどう思いますか」という実際にあった事例を元にテーマを設定し、それぞれグループに分かれて話し合いました。

利用者様の思いや苑内の現況を提示し、それに対する改善案について、支援員として何ができるのか、様々な切り口から意見や思いが出てきて、充実感のある研修となりました。

利用者様に対する呼び方は合っていますか

呼び慣れた愛称でつい呼んでしまうが、年齢にふさわしい呼び方がいいと思う

くすのき苑では権利擁護の観点から、利用者様に対して「名字にさんづけ」が好ましいとしている

施設内で、統一されていない職員によって、呼び方が違うことがある

愛称で呼ばれることで、ご本人の安心や安定が図れるのであれば、そのほうが良いと思う

ご本人からの強い要望がある場合は、希望する名前で呼んであげたい

外部から見た時に、誤解を招くことがある
年齢を考えて、対応をしたい

利用者様が施設の外に自由に出られないのはどう思いますか

以前職員が気が付かないうちに利用者様が一人で施設の外に出てしまい搜索したことがある

一人で外に出てしまうと、危険な状況になる
安全面を考えると、施設の外に出ないようにしたい

利用者様の要望をできる限り聞き、外出のスケジュールを作成したい

散歩中に突然他の方向に走り出すことがある
作業中に不穏になり、外に出ようとする

苑内での楽しい余暇活動を増やし、利用者様の楽しさを増やしていきたい

利用者様の特性をよく理解し、事前に職員間で情報共有をし、当日の状況を把握しておく



職員日記

生活支援員 田鍋 智枝

私は音楽が大好きです。子どもの頃は「ピアノの先生」「歌のお姉さん」「シンガーソングライター」に憧れていました。当時(今も)引っ込み思案なタイプだったので、誰にも打ち明けてはいませんでした。大人になってからは(もちろん自己満足の極みですが)「生バンドで歌う会」という会に参加して歌わせてもらったり、一人カラオケに行けば4時間歌い続けていたり…。そのためコロナが始まった時は、しばらくカラオケに行けず苦しかったです。たまたま携帯で見つけたカラオケアプリで歌の配信を始め、この4年間で、1400名のフォロワーさんに支えられ「ピアノ弾き語り」や「ラジオ配信」などにもチャレンジしています。またアプリの中で出会った方とユニットを組み、お互いにギターやピアノを弾きあって様々な歌をカバーしたり、ユニットのオリジナルソング(現在7曲目作成中)を作って活動しています。今はまだアプリの中の話ですが、小さなステージでも良いので、いつか二人並んでステージで歌うという夢を持っています。人生半ばを過ぎて、子どもの頃の夢を叶えられて本当に幸せだなと思います。これからも楽しく歌い続けて、夢を叶えていきたいと思います。



行事いろいろ

クリスマス会

くすのき苑のクリスマス会と言えば、職員がサンタとトナカイになるのが恒例です。今年はどうか…。時代は多様性、ダイバーシティ…。よし、今年は車椅子のサンタに決定だ!! 車椅子をド派手なソリに大改造し、サンタに変身した利用者様にお菓子を配ってもらいました。また、プティックくすのきを開店しショッピングを楽しみ、ボーリングで身体を動かし、美味しいクリスマスケーキも食べ、大満足なクリスマス会になりました。

主任生活支援員 大谷 晴香



防災訓練

私達は、13年前に東日本大震災という大災害を経験しました。また、元日には、能登地方で大きな地震に見舞われています。災害大国の日本ではいつどこで災害に巻き込まれるかわかりません。世に中では防災意識が高まり「もしも」に備え防災訓練が見直されています。

くすのき苑では、その「もしも」の時、スムーズに避難ができるように、毎月1回の防災訓練を実施しています。 生活支援員 飯塚 洋貴



成人式

先日、20歳を迎えた利用者様と野田ガスホールで行われた成人式に参加しました。大きな会場でも多く、最初は緊張していたのか、表情がかたい様子でしたが、徐々に笑顔が見られるようになりました。会場ではお祝いのメッセージビデオを静かに見たり、駐車場のカラフルな車を見て回ったりして楽しんでいました。帰りにコンビニでジュースとおやつを購入し、ニコニコしながら頑張っていました。

成人おめでとうございます!

生活支援員 藤川 旭郎



いちご狩り

1月11日にいちご狩りに行ってきました。外は少し寒かったですが、温室の中は暖か。水耕栽培で、床にはシートが貼られており、車いすの方でもスムーズに参加できるような綺麗な農園でした。

温室に到着すると皆様待ちきれず、いちごをガブリ! 自分でいちごをとって食べていらっしゃる方や、椅子に座ってわんこそばのようにモリモリ食べていらっしゃる方。皆様それぞれの楽しみ方で満喫され、あっという間の30分間でした。 主任生活支援員 葛原 聖人



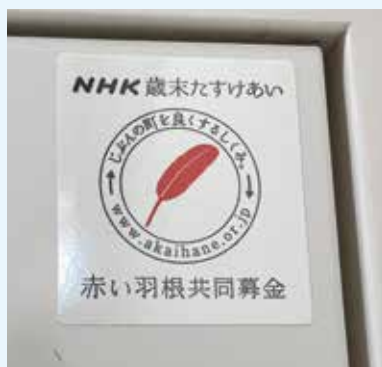
新年会

1月10日に新年会を行いました。利用者の皆様も新しい年を迎えて、お正月の歌を口ずさみ、お寿司や天ぷらなどの美味しい食事にとっても嬉しそうな表情をしていました。その他にも新年の抱負や好きな言葉を書き初めで書いてもらったり、お洒落な着物を着てお参りをしたり(苑内に作ったくすのき神社)、一緒に福笑いを楽しんだり、利用者様、職員ともにとても和やかな時間を過ごしました。

生活支援員 堀池 豊



NHK歳末助け合い赤い羽根共同募金会



今回、「NHK 歳末助け合い赤い羽根共同募金会」の助成をいただきありがとうございました。

壁紙を貼り替える工事も無事に完了し、これからはきれいな室内で生活することが出来ます。

利用者の皆様からもきれいになって嬉しいとの声が聞かれました。大変感謝しています。



ありがとうの会

長い間くすのき苑で勤務していた職員が退職することとなり、ありがとうの会が行われました。いつも利用者様と真摯に向き合い、利用者様に寄り添い、支援の姿勢は他の支援員のお手本になるような職員でした。今回、新しい目標に向かって進んでいかれると聞き、残念で寂しい気持ちでいっぱいですが、応援していきたいと思います。

長い間、本当に有難うございました。



リニューアル しました!

ホームページとパンフレット

多くの方へ法人の活動をお伝えするために、ホームページとパンフレットをリニューアルしました。ホームページでは、最新の情報を発信していきますので、是非ご覧ください。



編集後記

1月の寒い時期に沖縄旅行へ行ってきました。向こうでは気温が平均20℃以上あり、とても快適で、冬の間は避寒地として沖縄で過ごしたいなと思ってしまいました。

(清宮)

世の中には桜に関する卒業ソングが沢山あるが東北で生まれ育った私にとって卒業式と桜は結び付かない。卒業式には吹雪のイメージである。関東に来てようやくイメージが世間に近づいてきているようだ。

(片倉)

社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑

〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121
TEL:04-7120-6667
FAX:04-7120-6668

発行責任者 総合施設長 清本 健二郎
編集 清宮・片倉
発行日 令和6年4月吉日

